

区民会議フォーラム結果概要

● 日時 平成20年3月1日 午後1時15分から午後3時まで

● 場所 川崎市立土橋小学校 4階多目的ホール

● 来場者数 90名

● 進行役 瀧峠 自治政策部長

● パネリスト 荒井 敬八 川崎区区民会議委員
 葉山 直次 幸区区民会議委員
 竹井 斎 中原区区民会議委員
 富田 誠 高津区区民会議委員
 小林 達哉 宮前区区民会議委員
 田嶋 郁雄 多摩区区民会議委員
 西谷 明子 麻生区区民会議委員



- フォーラムの流れ
- ・フォーラムの趣旨説明（進行役）
 - ・各区第1期区民会議の説明、意見交換（パネリスト、進行役）
 - ・会場との意見交換
 - ・総括（パネリスト、進行役）

【区民会議フォーラムの意見交換等の概要】

1 パネリストの意見交換

● 論点1 区民会議とまちづくり推進組織の関係

- ・区民会議とまちづくり推進組織との類似点が多い。試行錯誤しながら区民会議の位置づけを模索している。
- ・まちづくり協議会の委員が区民会議委員の中にいるので、協議会の意見を取り入れることができる。
 また、専門部会に呼ぶなどして連携すれば、さまざまな団体が同じ課題に取り組んでも問題ない。活動が重複しても、意見交換をして高めていけばよい。
- ・地域に根ざした活動にするための広報に力を入れ、違った方向性を出している。
- ・互いに歩み寄り、調整なり連携することが必要である。

● 論点2 委員間のコミュニケーション

- ・委員同士の議論やコミュニケーションの場が持てない。
- ・全体会では報告がほとんどで、1人ずつから意見を聞くのが精一杯。形だけの区民会議にせず、全体準備会のような自由な討論の場を確保する必要がある。
- ・全体会の前に自由な意見交換の場があり、コミュニケーションが図られている。

- ・専門部会を設置すると、課題ごとに委員が細分化されるという問題も生じる。
- ・委員間の温度差が課題。議論はするが実施する人が少なく、行政が活動団体にお願いしている状態

2 会場からの意見

- ・協働の視点から、区民会議とまちづくり推進組織とのバッティングを吸収できるのではないか。
- ・審議内容を地域や団体に持ち帰り、広められる人が委員になってもらいたい。
- ・第1期の委員には、今後も市民活動を広める活動をしてもらいたい。
- ・区民会議の結果を行政の施策・事業に反映させなければ意味がない。
- ・中原区の自転車問題は、他区の自転車が流入していることもあり、単独区の取組だけでは限界がある。市全体の問題として取り上げてほしい。

3 パネリストの総括

- ・まちづくり推進組織やまちづくり育成条例をはじめ、重複した施策が行政の縦割りで町内会・自治会に来るので負担が大きい。区民会議の決定を実行できる状態ではない。行政は連携を取ってもらいたい。
- ・区民会議のメリットは、1つの場所で区の課題を共有できるところ。20人の委員が関心を持った課題に取り組むという割り切りも必要なのでは。
- ・区民会議の提案が実現するように行政に働きかける必要がある。
- ・委員は、区長に提案して終わりにするのではなく、課題解決に向けた参加・協働をするという共通認識を持っている。行政も予算化している。こうした実績の積み重ねが区民に対するPRになる。
- ・区民会議では、他で取り上げられていない身近な問題を取り上げる必要がある。
- ・地域の課題を地域で解決するには、地域コミュニティづくりが大切。地域の基盤がしっかりしていれば解決することができる。



当日の会場の様子